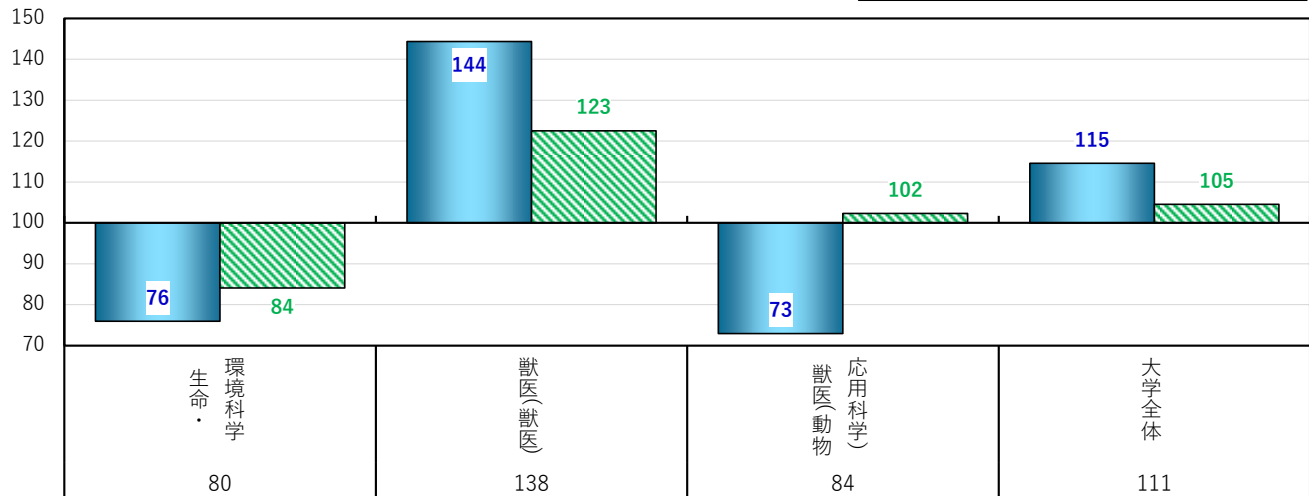


麻布大：大学全体では2年連続増加、獣医(獣医)の一般新方式導入の影響

一般：+353人 共テ：+61人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

試験会場：生命・環境科学、獣医(動物応用科学)
 …<一般・第I期E日程>相模原、仙台、さいたま、名古屋、大阪、福岡→相模原、さいたま、大阪、福岡 ※仙台、名古屋除外
 選抜方法：獣医(獣医)…<一般>第2志望制度廃止
 …<一般・第I期A日程(3科目選択型)>新規実施
 募集人員：生命・環境科学(食品生命科学)…<一般・第I期>40人→25人
 (環境科学)…<一般・第I期>40人→25人
 獣医(獣医)…<一般・第I期D日程>70人→62人
 募集単位呼称変更：生命・環境科学、獣医(動物応用科学)…<一般・第I期D日程>→<一般・第I期E日程>
 獣医(獣医)…<一般・第I期3科目型>→<一般・第I期D日程(3科目型)>

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、414人(111)の増加で2年連続増加。志願者数は3年ぶりに4,000人を上回った。学部別(獣医は学科別)では、獣医(獣医)(138)は4年連続減少の反動と一般新方式実施の影響で大幅増加。一方で、(生命・環境科学)(80)は大幅減少、過去4年間で3回の大幅減少、獣医(動物応用科学)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、一般方式は353人(115)の大幅増加で2年連続増加。獣医(獣医)の新方式実施が影響。ただし、これを除くと(91)の減少。共通テスト利用方式は61人(105)のやや増加で4年連続減少の反動は小さく、2019年度対比では約35%減少。

<一般方式>

- 生命・環境科学(76)は、大幅減少。募集人員減少率21%を上回る減少率で、志願倍率も4.3倍→4.1倍にダウン。学科別では、(食品生命科学)(74)、(環境科学)(77)はいずれも募集人員減少率33%を下回る減少率で、逆に志願倍率はそれぞれ3.2倍→3.6倍、4.5倍→5.2倍にアップ。募集人員の変化がない(臨床検査技術)(76)は大幅減少で3年連続減少、志願者数は200人を下回った。
- 獣医(獣医)(144)は、大幅増加で2年連続増加。ただし、新規実施の<第I期A日程(3科目選択型)>を除くと(104)のやや増加。
- 獣医(動物応用科学)(73)は、前年度激増の反動で大幅減少。方式別では、<第II期>(35)は激減で5年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 生命・環境科学(84)は、大幅減少で4年連続減少。2019年度対比では、ほぼ半減。学科別では、(食品生命科学)(80)、(環境科学)(84)は大幅減少、(臨床検査技術)(88)は減少。
- 獣医(獣医)(123)は、4年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は3年ぶりに700人を上回った。方式別では、<第1期>、<第2期>のいずれも大幅増加。
- 獣医(動物応用科学)(102)は、4年連続減少の反動はなく微増で、志願者数は3年連続300人を下回った。